

## アルゼンチンアリの防除対策

### (1) 種名 (学名)

アルゼンチンアリ (*Linepithema humile*)

特定外来生物 (平成 17 (2005) 年 4 月指定)



### (2) 生態の概要

- ・南米原産です。
- ・体長 2.5～3.0mm、外皮は軟らかく、黒褐色のアリです。
- ・温暖な条件では密な行列を作って素早く歩行します。
- ・国内では平成 5 (1993) 年に広島県廿日市市で定着が初確認されて以降、全国各地で確認されています。
- ・高い繁殖力を持ち、侵入地において在来アリ類を駆逐するなど生態系への影響のほか、家屋侵入により住民に精神的苦痛をもたらす衛生害虫です。
- ・海外では果樹への被害報告があります。



### (3) 分布状況の概要

中国四国地方環境事務所管内では岡山県、広島県、山口県、徳島県で確認されています。

### (4) 中国四国地方環境事務所の取組

平成 24 (2012) 年に岡山市内 (北区旭川右岸の 32ha) で初めて確認され、モニタリング調査を実施しました。平成 25 (2013) 年から根絶を目指して防除とモニタリング調査を継続して実施しています (旭川河川敷の防除は岡山河川事務所が担当)。

防除は、主に道路沿いで市販のベイト剤の設置(\*1)、巣が確認された場合の液剤散布(\*2)により実施しています。

\*1 緑色のプラスチックケースに入った遅効性の殺虫成分を含んだ餌を巣に持ち帰らせることで、巣全体を駆除することを狙いとしています。

\*2 ベイト剤と同じ成分の液剤で、噴霧器を用いて巣内や行列に直接散布します。

### (5) 他機関、NGO 等の取組 (管内他地域の取組)

#### ● 徳島県の状況

平成 27 (2015) 年度より徳島県が協議会を設置し徳島市津田海岸町の生息域 (約 10ha) において防除を実施しています。また、平成 28 (2016) 年 6 月、鳴門市と藍住町にまたがる生息域 (約 50ha) でも確認され、同地域においても防除を実施しています。こ

これらの防除は、環境省の生物多様性保全推進支援事業を活用して行われています（平成27～令和2年度）。

● 広島県・山口県の状況

平成5(1993)年、広島県廿日市市において、我が国で始めて定着が確認されました。廿日市市には木材輸入港があり、南米からの木材輸入に伴い侵入した可能性が指摘されていますが、事実関係は不明です。

平成18(2006)年、広島県呉市から山口県柳井市にわたる広島湾沿岸部の調査を実施しました。広島県廿日市市、広島市、大竹市、呉市、府中町、山口県光市、岩国市、柳井市、宇部市で生息が確認されています。

広島県、山口県と関係市町村で構成する「アルゼンチンアリ対策広域行政協議会」による防除が、環境省の生物多様性保全推進支援事業を活用して行われています（平成20～22年度）。

また、令和元(2019)年10月には、広島県福山市内でも生息が確認されています。

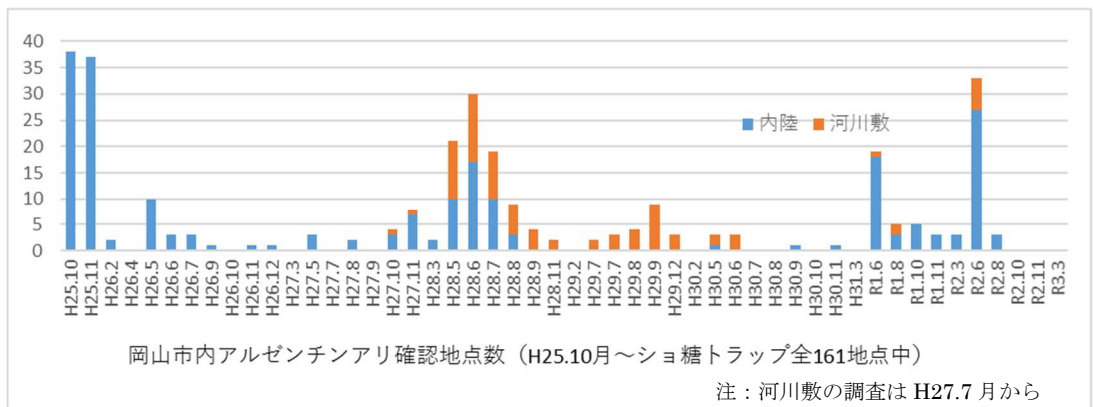
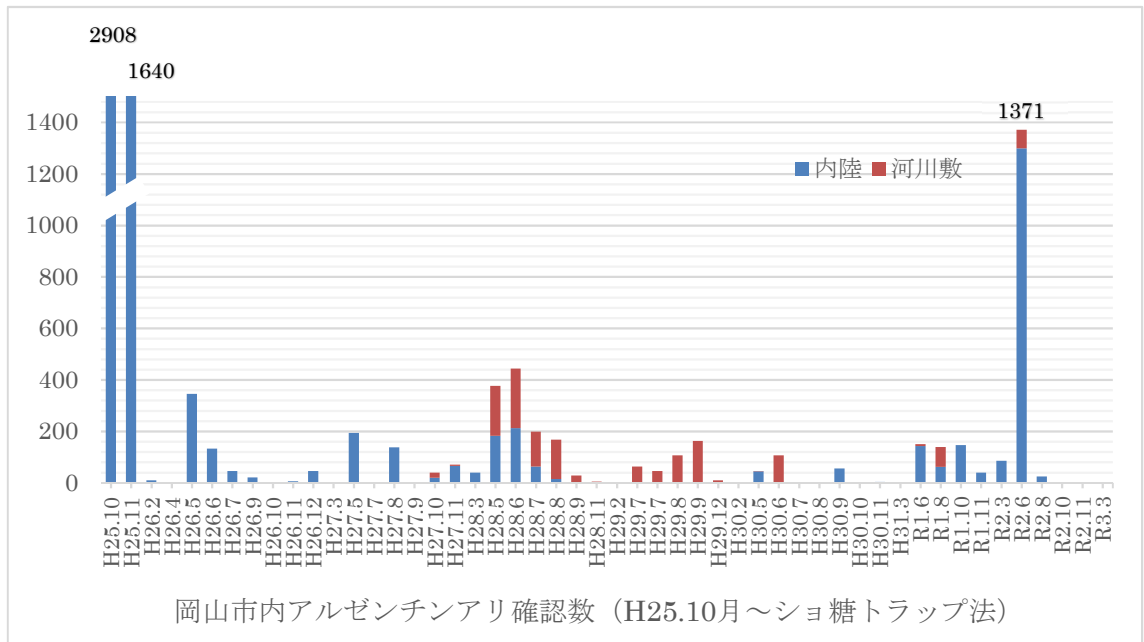
(6) 課題

岡山市内におけるアルゼンチンアリ防除は、当事務所直轄事業として8年が経過しています。防除によって、道路沿いの調査では確認されなくなるまで減少していますが、その後、再び増加する状況が続いています。これは、道路から離れた巣に対して薬剤が十分に行き届かず、残存個体群が再び増殖し分布を広げていると考えられます。

道路沿いでの調査では令和2年10月以降確認されていませんが、令和3年4月以降の調査では、道路から離れた場所で多数の個体と巣が確認されています。

このため、公共施設、民間施設を問わず、関係者が協力し、巣の有無を確認し、確認された場合には徹底して防除を実施しなければ根絶することは困難です。石垣やブロックの隙間、空き家など、防除困難な生息地を減らす環境整備も必要です。

広島県、山口県、徳島県の該当市町では、生息域の拡大防止と活動の強化が必要です。



(7) その他 (参考文献、HP 等)

アルゼンチンアリ防除の手引き (環境省 HP, 2013)

[http://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual\\_argentine.pdf](http://www.env.go.jp/nature/intro/3control/files/manual_argentine.pdf)